

また、永吉の天神段遺跡では、平安時代（約1, 200年前）と弥生時代の（約2, 100年前）の集落跡などが発見されています。

さらに縄文時代前期（約5, 000年前）の土器が発見されたほか、縄文時代早期（約7, 300年前）の巨大地震に伴う噴砂跡も見つかりました。

この噴砂跡の発見により、鬼界カルデラの巨大噴火に伴い、液状化現象（噴砂跡）が起きたことが分かりました。

これまでの遺跡調査は、当時の生活や文化を調べる手がかりでしたが、今後は、防災、減災を検討する重要な資料にもなります。

こうして当時の暮らしをみると火山の噴火など自然災害と向き合ってきた古代人の姿が見えてきます。

これらの遺跡は、まだまだ謎が多く秘められています。古代人が現代に何か大切なメッセージを残しているように感じます。



▲下堀遺跡



▲西日本最古の石剣



▲鬼界カルデラ巨大噴火地震による液状化現象の痕跡（永吉天神段遺跡）



沢目遺跡（くいの松原）で集落がつけられる

下堀遺跡（岡別府）で集落がつけられる

永吉天神段遺跡（档ヶ山）で集落がつけられる

天神段遺跡（塗木）石剣・曾畑式土器

永吉天神段遺跡（档ヶ山）荒園遺跡（仮宿上）で噴火地震による液状化の痕跡

薩摩半島から約50 km南の鬼界カルデラの巨大噴火

氷河期終わる（このころまで海岸線は志布志湾外にあった）

桜島の大噴火縄文土器が使われる

鹿児島湾北部の始良カルデラ巨大噴火（九州は壊滅）石器が使われる

人類の誕生



▼沢目遺跡（くいの松原）



▼永吉天神段遺跡（档ヶ山）



▲鹿児島県のカルデラ